

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）
次世代海洋資源調査技術（海のジパング計画）シンポジウム
～これからの海洋資源調査はこう変わる！～
開催報告

平成27年12月24日
国立研究開発法人海洋研究開発機構
次世代海洋資源調査技術研究開発プロジェクトチーム

1. 日時

平成 27 年 12 月 2 日（水）13:30～17:30

2. 会場

大崎ブライトコアホール
（東京都品川区北品川 5-5-15 大崎ブライトコア 3 階）

3. 実施体制

- 主催 : 内閣府、海洋研究開発機構
- 後援 : 総合海洋政策本部、総務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省、情報通信研究機構、産業技術総合研究所、海上技術安全研究所、港湾空港技術研究所、国立環境研究所、九州大学、高知大学、東京大学、東京海洋大学、横浜国立大学

4. 開催概要

本シンポジウムは、平成 26 年度より開始した戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）次世代海洋資源調査技術（海のジパング計画）事業を広く一般に紹介することを目的として、昨年度に引き続き開催した。当日は、264 名の方々に参加頂いた。

研究実施項目の報告では、サブテーマ毎に本課題の成果について、社会実装化される将来像を踏まえて講演を行った。

パネルディスカッションでは、海洋資源調査への今後の期待について、本事業の実施側関係者、関連する民間企業の有識者、一般目線の立場としてのメディア関係者らによって議論を行った。その中で、研究機関-国-民間が単体で実施することの困難さについて認識を共有し、SIP 次世代海洋資源の実施体制の下、三身一体となって実施することの必要性が共有・認識された。また、海洋資源調査産業を中心とした関連業界の持続的な発展には人材育成が不可欠である旨、意見があった。

5. プログラム

- 13 : 30 ~ 13 : 35 開会挨拶
久間 和生
(総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員)
- 13 : 35 ~ 13 : 45 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の取組み
松本 英三
(内閣府 大臣官房審議官 (科学技術イノベーション担当))
- 13 : 45 ~ 14 : 05 次世代海洋資源調査技術の現状
浦辺 徹郎
(次世代海洋資源調査技術プログラムディレクター)
- 14 : 05 ~ 14 : 35 海底資源に係る成因モデルの構築に向けて
熊谷 英憲
(海洋研究開発機構 主任技術研究員)
- 14 : 35 ~ 15 : 05 海洋調査技術の将来
浦 環
(次世代海洋資源調査技術サブプログラムディレクター)
- 15 : 05 ~ 15 : 35 環境影響評価の国際標準化に向けた取組み
福島 朋彦
(海洋研究開発機構 調査役)
- 15 : 35 ~ 15 : 55 休憩 ・ ポスターセッション
- 15 : 55 ~ 16 : 15 民間企業からみた SIP1 : 産業化に向けた海洋調査技術の向上
久保田 隆二 (海洋調査協会 理事・SIP 推進室長)
- 16 : 15 ~ 16 : 35 民間企業からみた SIP2 : 熱水鉱床調査技術のレビューと期待される SIP 成果
山川 正 (次世代海洋資源調査技術研究組合)
- 16 : 35 ~ 17 : 25 パネルディスカッション
「次世代海洋資源調査技術へかける期待」
サッシャ (ラジオナビゲーター)
廣川 満哉 (石油天然ガス・金属鉱物資源機構 金属資源技術
部担当審議役)
山根 一眞 (ノンフィクション作家)
河合 展夫 (次世代海洋資源調査技術研究組合 理事長)
伊藤 直和 (海洋調査協会 専務理事)
浦辺 徹郎 (次世代海洋資源調査技術プログラムディレクター)
浦 環 (次世代海洋資源調査技術サブプログラムディレクター)
堀田 平 (次世代海洋資源調査技術サブプログラムディレクター)
- 17 : 25 ~ 17 : 30 閉会挨拶
堀田 平 (海洋研究開発機構 理事)

本会終了後、17 : 45 より同会場 ホワイエにて情報交換会を実施。

6. 当日の様子

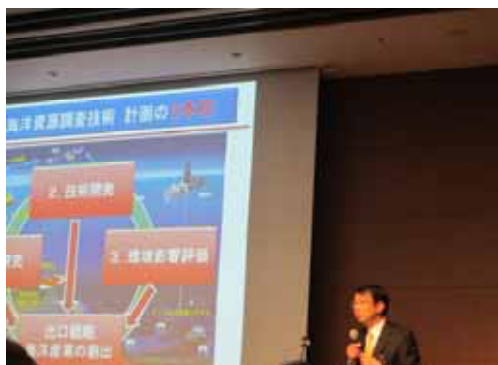


写真1 .浦辺プログラムディレクターによる講演



写真2 .熊谷主任研究員による講演



写真3 .パネルディスカッション

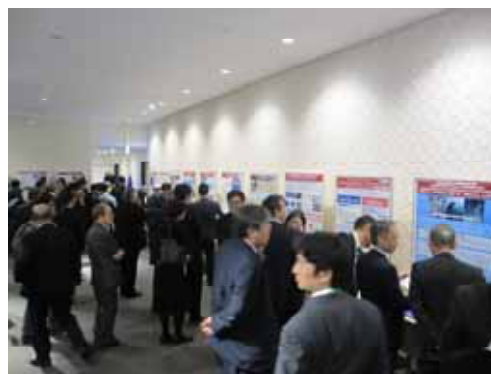


写真4 .ポスターセッション

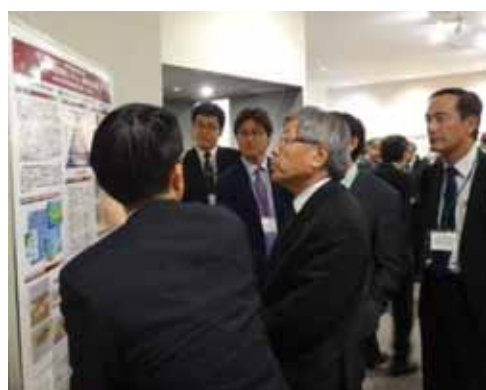


写真5 .ポスターセッション

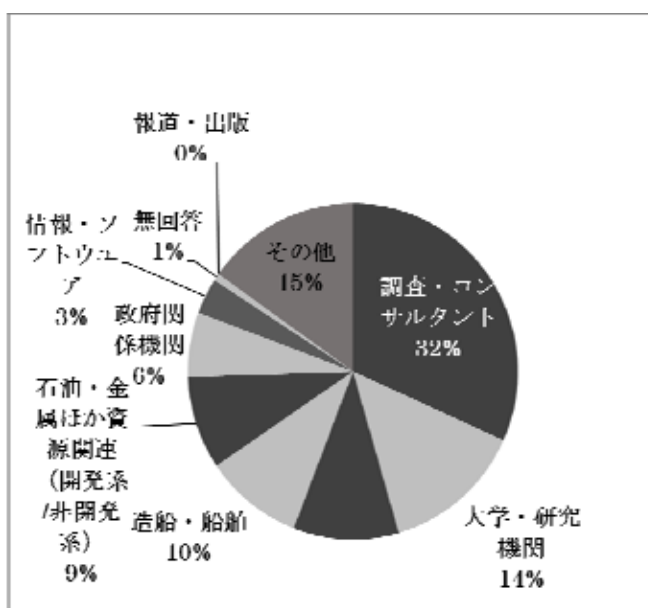
7. アンケート結果について

シンポジウム当日は、参加者に対してアンケート用紙を配付し、シンポジウム終了後に回収した。参加者総数 264 名のうち、145 名よりご回答いただき、回収率は 55%であった。アンケートの内容は、主に(1)参加者の業種や背景、(2)シンポジウム内容への評価で構成されている。

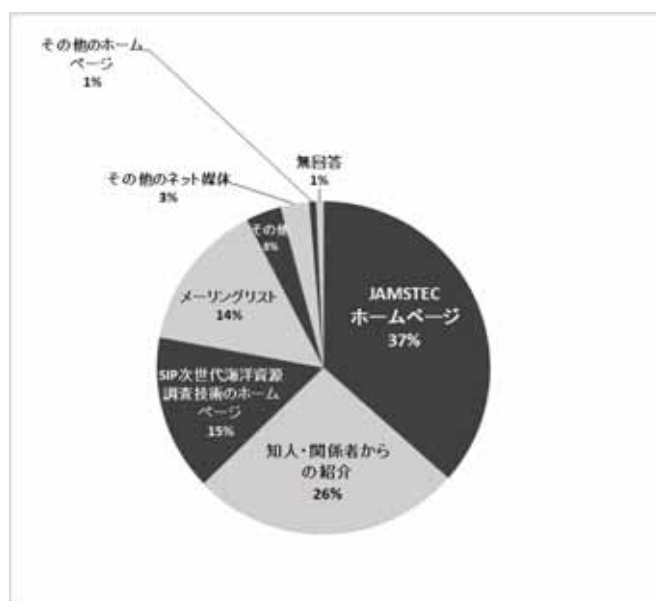
主な集計結果は以下の通りであった。

(1) 参加者の業種・背景

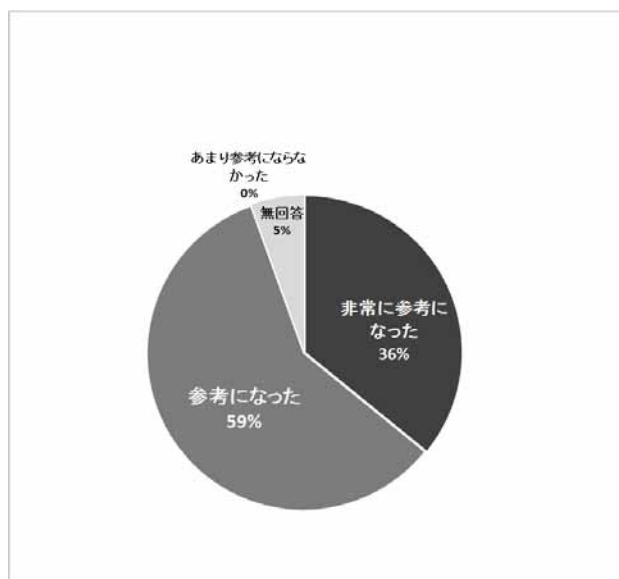
参加者の業種 内訳



シンポジウムの開催の認知媒体



(2) シンポジウムに対する評価



以上